



お盆を迎えるにあたり

当山では、お盆の行事を左記の通り行ないます。まず、八月三日(日)午前十一時より、盂蘭盆供大施餓鬼会法要を厳修いたします。

先立って初盆をお迎えされた方の法要を十時より行ないます。



法要の中心として安養寺門前の檀越堂

東方山安養寺

第32号
平成26年
7月1日

十五日までに各家にお盆の棚経詣りをさせていただきます。



十六日夕方六時より、皆様から御献燈頂きましたロソクに点火し精霊送りの法要並びに恒例の盆踊りを修行致します。

お施餓鬼の申込用紙と棚経詣りの承諾書を七月二十日までに、ご返送賜わりますよう、宜しくお願い申し上げます

- 一、日時 八月三日(日) 十一時より
- 一、法要 孟蘭盆供大施 餓鬼会法要
- 一、法話 土口哲光僧正 大師流慈苑講
- 一、奉納 昼食
- 一、接待

真言宗
弘法大師88ヶ所霊場
東方山安養寺
520-3015 栗東市安養寺88
Tel 077-552-0082
Fax 077-552-9151
URL touhouzan-anyouji.com
E-mail to-anyouji@nifty.com

日時 八月十六日(木) 午後六時より
八十八ヶ所精霊送り
法要並びに盆踊り
以上

檀信徒各位
東方山安養寺住職
合掌



枯れ果てた心に仏心の芽が出る
「今の心」を大切に、新たな都市の復活(後)

京都 東寺 前・教化部長
亀光庵主 土口哲光

刑務所の被收容者(受刑者)に教え諭し導いて通常の社会人にたちかえらせる教誨師のお役を頂いて4年目になる。自分自身が教えられて導かなければならない者が、それこそ「自分が見えない」のに、どうして人さまの教誨なのだ、今の今もずっと苦悶の「如実知自心」である。そんな私を求めて、受刑者の一人Kさんがここ2年間にわたった5度ほど連続して個人面接を私宛の願箋(がんせん・願い書)を出してくるので、面談を続けている。

「先生、私はかなり法律を勉強してきました。入所してから一層学んだ結果、何故自分だけが重い罪を負って行かねばならないのか、疑問に思っている」と、何度も繰り返す。私は「法律を勉強してありません。あなたが裁かれた罪も存じません」と言つと「殺人です」との答えが返ってきた。事件の取り調べで、担当の刑事や検事の調べ方について、まるで鬼に責められているような恐怖感をもった様子も窺える。もちろん、刑事や検事は鬼でない。法のルールに基づいて厳正な姿勢で取り調べているはずである。鬼に見えるのは、彼の犯した行為が痛むからなのであろう。それに法律の学びは恐怖や孤独からの逃避、既に家族からも見捨てられ、社会からも見放されたなかでの

唯一、彼の支柱になっっているのかも知れない。一二度目は彼の法律論をジツと聞いた。法律に何にも答えられない頼りない教誨師にもう面接を求めないだろうと、思っていたところ、三度目になって、「作詞、作曲した歌がありますので、聞いてくれませんか」と。即座に「聞きましよう」と答えた。歌詞も意味不明で声はくぐもって地の底を這うような不快な気分になってしまった。曲も暗くて実に単調である。四回目も「続きを聞かされた」。ところが、3ヶ月後の5回目の願箋に「土口教誨師先生に被害者の供養をお願いしたい」と提出され、新年1月6日に面談した。

「Kさん、新年あけましておめでとう。被害者の供養をよく思い立たれました。供養の経文を私がお唱えした後、一緒に般若心経をお唱えしよう」と、ともに唱和した。2年前に初めて面接した時の姿から精気が少し感じられるようになった。まず、被害者に対して正直にお詫びをし、ましていのちまで奪っているのであるから、人間として供養をする心を起こされるようにずっと願っていたものだ。それを、私の口からこれまで一言も発していなかった。そのKさんが自ら「供養」を願われ、実現したのである。

実は、彼の歌は、刑務所側にとって、大変迷惑だったことを私は知っている。教誨室の礼拝堂から2度にわたってそれも4曲くぐもった声とはいえず、精一杯大声で歌い出すのだから静寂な所内に「何事か」と、警戒心を起こさせ、不適切でないかとの声もあつたはずだ。それを黙認していただいたおかげで、彼のこれまでの持ち続けた恐怖の悪鬼が去った後の心に、被害者の供養心が芽を出したに違いない。枯れきった心にも仏心の芽はいきつづけていたのでないだろうか。「如実知自心」を掘り起こされた仏の力に思わず、なるほど、なるほどと感謝してよき新年を迎えたことを喜んでいいる。

(つちぐち・つつじ)



京都府向日市寺戸町

亀光庵主 土口哲光

真言宗総本山 東寺 前・教化部長

プロフィール

1940年神戸市西区・真言宗御室派長福寺の生まれ。宗教専門新聞「中外日報社」入社。編集記者を経て同社取締役・大阪支社長、本社の局長を歴任。退職後、真言宗総本山東寺教化部長に就任、平成22年に退任。現在は滋賀刑務所教誨師。著書に「泣いて生まれてきたのだから笑って死にゆく準備をしよう」(文芸社)京都府向日市寺戸町に安らぎの場「亀光庵」を創立する。

